



居心地のいい家

住まい
訪問

06

住起産業 T邸

傾斜地を活用
スキップフロアが生み出す
暮らしの広がり





シャープな外観が見る人を引きつけるT邸



T邸

敷地面積	208.29㎡
延床面積	96.89㎡
1階面積	56.31㎡
2階面積	40.58㎡
工期	6ヵ月
構造	木造軸組
家族構成	夫婦+子供2人
壁材	ビニールクロス
床材	無垢フローリング
外装材	鋼製サイディング
屋根材	ガルバリウム鋼板
キッチン	YAMAHA
バス	松下電工
トイレ	ジャニス

住起産業株式会社

〒411-0833 三島市中250-5
 フリーダイヤル 0120-36-1062
 電話 055-972-3041
 FAX 055-981-5575
 メール info@jyuki.com
 ホームページ <http://www.jyuki.com>
 坪単価目安 40万~60万円
 施工対応エリア 東部・中部

施工対応項目

木造軸組/鉄筋コンクリート/プレキャスト/鉄骨
 /オール電化/省エネ/防音/免震/自由設計/
 3階建て以上/地下室/リフォーム/外構・ガーデニング

資料はこちら

一括資料請求番号 協賛社宛はがき

FAX H-18

あり

素晴らしい眺望と傾斜を生かして

市街を一望できる高台に建つT邸。住起産業が開催した相談会がきっかけで、この土地に巡り合ったというTさん夫妻は眺望の素晴らしいにまず圧倒された。ただ、傾斜地のため、希望通りの家が建つのかという不安が残ったが、それを払拭したのは、傾斜地を生かせるスキップフロアの家だった。



T邸は玄関ホールで上階と下階に分かれている。上下階のフロアをそれぞれつなぐのは短い階段。スキップフロアの設計により、T邸は高さとお行きのある家となった。玄関ホールに立つと、この先にどんな空間があるのだろうかと思わせる人をワクワクさせる。入居から2ヵ月経った今も、大きな満足を感じつつTさん一家は暮らす。

T邸には家族全員のお気に入りの場所がある。玄関ホールから下へ降りた子供部屋と夫妻の寝室前のスペースだ。2歳の長女、小学生の長男、そして夫妻、家族全員の本をこの場所に備え付けた本棚に納めてある。階段に腰をおろし、絵本を読んだり、会話を楽しんだり、家族が温かく交流できる空間となっている。

家族が自然と集まる空間づくり

T邸のリビングルームからは、「家族みんなが自然と集まってくるように」という夫妻の思いがストレートに伝わってくる。眺めの良さはもちろん、広いベランダからは風が通り抜け、4面すべてにある窓からの採光も十分だ。キッチンは一汚れが飛び散るのが嫌なので」と話す奥さんのために、流行のアイランド型ではなく独立型を採用。その結果、キッチン上部に3帖ほどのロフトを設けることができた。「もう一つの部屋として活用できて便利です」とTさんも胸を張る。

Appeal Point ①



玄関ホールから階段を上るとリビングとバスルーム、下に降りると子供部屋と寝室に分かれている。短い階段のため、上下の移動が負担にならない。傾斜地を巧みに活用し、奥行きと高さを意識した構造がT邸の神髄だ。このように一見、ハンディとも思える条件を逆転の発想でより有効的に個性あるデザインにすることを得意としているのが住起産業だ。



- 天井部分に設けた梁によって、より空間が高く、広く感じられる。また、梁の一部にレールを通して可動式の照明を設置した
- キッチン上部に設けたロフト。子供たちの遊び場以外にも多目的に使える。ロフト上部にある窓も含め四方から光と風が入る開放的なリビング
- 12帖の子供部屋。将来的には真ん中に仕切りを設けて長男と長女、それぞれの部屋になる予定
- 玄関から下りる階段脇に設けた本棚のある空間は、家族みんなが集まるスペース。本棚の棚の高さは自在に変えることができる
- 夫妻が一目で気に入ったという眺望。箱根連山が手に取るように見える
- 傾斜地という立地上、どうしても平地下になってしまう居室部分。運氣がこもらないよう、あえて押入には扉を付けず、風通しを良くした



左上から吉原さん、瀧口さん、渡邊さん、右下から中津川さん、山田さん

担当者コメント

「住まいを起して福を呼ぶ住起産業」は人と自然が共存する地域を目指し、安心して生活できる住まいを造ります。住まう人が安全かつ快適にお過ごしいただけるクオリティーの高い住環境の実現こそが、私たちの最も重要なテーマです。まず、私たちがどうお客さまのお役に立てるかをお伝えしますので、思う存分希望や疑問をお話ください。社員一同、心を込めてサポートいたします。

施主コメント Tさん

平面的な広さには限りがあったので、「高さ」で開放感を出すこと、眺望を十分に楽しめること。この二つを強く希望したところ、住起産業が見事に応えてくれました。ホワイテで統一した内装に、これから家族の「色」を少しずつ加えていきたいと思っています。